

校長室だより

国立市立国立第七小学校長 森田弘文

平成25年11月18日 NO.26

子ども達一人一人が輝いた学芸会

11月16日(土)。芸術の秋にふさわしく、国立第七小学校の学芸会が子ども達の弾ける笑顔満載で晴れやかに行われました。この日のために一生懸命に練習してきた子ども達。一人一人の表情が最高に輝きを放っていました。どの学年もその発達段階に応じて、持てる力を存分に出し切ることができました。保護者や地域の皆様方841人もご鑑賞され、大きな拍手と応援をいただき本当にありがとうございました。心より感謝申し上げます。また、衣装の準備やご協力、さらには制作等まで、重ねて御礼申し上げます。



子ども達は、本番を迎えるまでに、たくさんの練習を重ねてきました。先生からの厳しくも暖かな指導や助言がありましたが、子ども達は先生達の思いを素直に受け止め、当日の舞台では自信をもって、大きな声と大きな演技により、参観された方々から高い評価を得ることができました。長い台詞を堂々と間違えずに言っていた子ども達。自分であれこれと動作を考え工夫していた子ども達。みんなで心をそろえて会場いっぱい歌声を響かせた子ども達。時には自分たちで道具を作り裏方としてもがんばり抜いた子ども達。そんな子ども達一人一人が、自分のめあてをしっかりと持ち、やりきった学芸会。表現力の向上はもちろんのこと、他とのかかわりの中で、友達を思いやること、協力して一つのことをやりとげること等の大切さを、体験を通して学ぶことができました。この学芸会という行事を通して、第七小学校の子ども達が間違いなく大きく成長できたことでしょう。

さあ、二学期も残すところ一ヶ月余りとなりました。これからは寒さも本格化してきますが、健康に留意して、学芸会で培った力をこれからの学習や学校生活に生かして行ってほしいと願っています。これからも子どもたちの確かな学力の伸長と心と体の健やかな成長を願い、安心・安全の学校づくりをめざして奮闘努力して参ります。

保護者・地域の皆様、さらなるご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

全校朝会より

11月18日(月)の朝会では、多様な鳥とそのくちばしとの関係についてお話しました。前回10月8日(月)では、いろいろな鳥の足についてのお話だったので、その続編という意味もありました。鳥は生活するその場所の違いによって、体の部分も様々に変化し、その環境に適したものが遺伝子を継承し、進化し生き続けることができること。そして、それぞれに、その形態には意味があり、偶然ではなく必然的であり、連綿と命のバトンの引き継ぎがあり、現在の姿があることを知ってほしいと願いお話をしました。詳しくは、『花ちゃん・オー君・モンタ博士のわくわくドキドキ国立てくてく』NO59に掲載してありますので、そちらもご覧下さい。なお、最後に、おまけとしてサプライズな種子の実演も行いました。